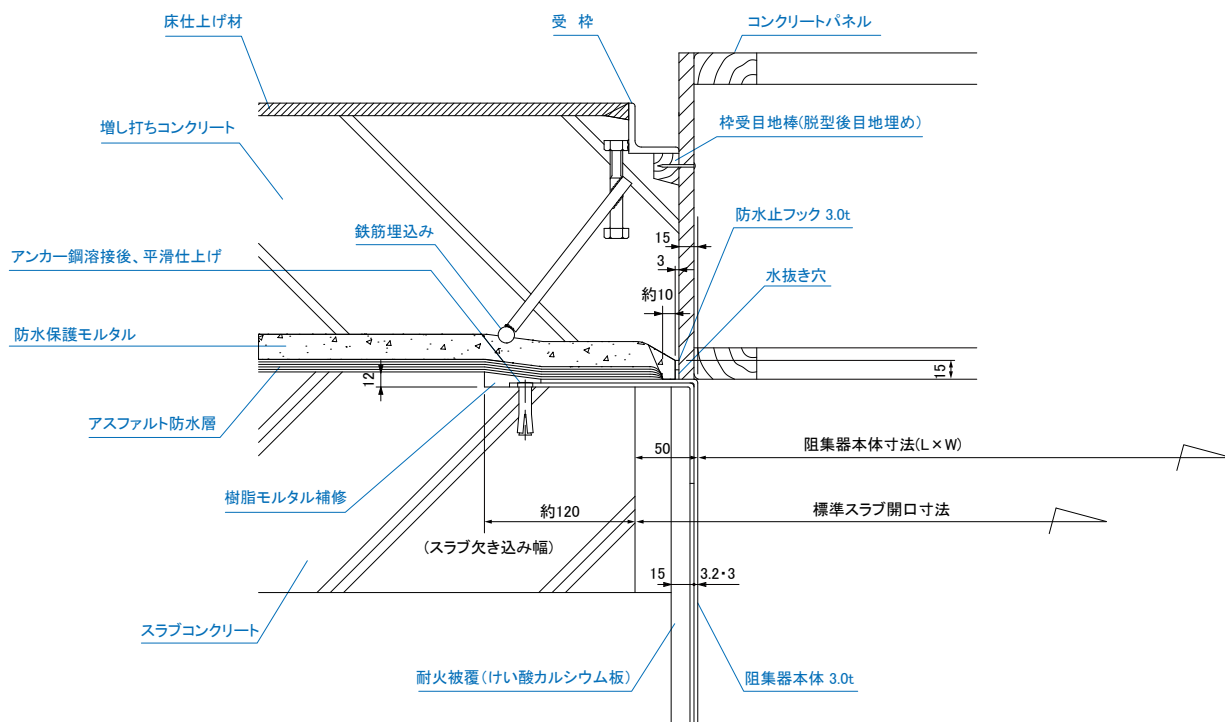


耐火型阻集器標準設置要領図



●設置要領

- ① 防水仕様の阻集器は、標準スラブ開口寸法の他、約120mm×12mm幅のスラブ欠き込みを4周に設けてください。
(この欠き込み部に本体防水つば125mm～150mm幅×6mm厚がセットされます。)*欠き込みが無い場合、本体周辺の防水層が盛り上がる為、排水が滞留します。
- ② 芯出し後、本槽を水平に据付け、4隅にセットアンカーを打設し、頭部を溶接固定してください。
(アスファルト防水層を傷つけないようアンカー頭部をサンダー掛けし、平滑にしてください。)
- ③ 防水つばとスラブ欠き込みの段差部は、樹脂モルタル等で補修して防水下地を作ってください。
- ④ アスファルト防水層の貼り仕舞い端部は、防水止フックの10mm程度手前で止めて水抜き穴を塞がないようにしてください。
(防水止フックには水抜き穴が設置されており、アスファルト防水層上部の滞留水や防水層下部からにじみ出た水等がこの水抜き穴から排出されます。)
- ⑤ 保護モルタル打設時、受枠や側溝取付け用のアンカー鉄筋(D-13)等を両サイドに埋め込んでください。
後施工する場合は、芯出し後に接着剤(タイルメント)等を用い要所に溶接用アングルピース等を接着してください。
- ⑥ 受枠取付け用の内型枠を防水止フック4周に押し当て、要所を桟木等で補強してください。
(増打コンクリート打設時の側圧で受枠が変形した場合、蓋が納まらない状況が生じます。)
- ⑦ 仮受用の目地棒を4周に取付け、その上に受枠をセットし、アンカーに溶接して同枠を固定してください。
- ⑧ 増し打ちコンクリートを打設してください。
- ⑨ 型枠解体後、目地棒を抜き取りモルタルで補修してください。
- ⑩ 上蓋を乗せて完了です。
- ⑪ けい酸カルシウム板15mmを使用した評定認可製品に限り、スラブ躯体開口と耐火被覆(グリーストラップ本体)との間に発生する約30mmの隙間処理は不要です。(セラミックファイバー等を充填する必要はありません。)

●嵩上げスリーブ詳細図

